



奥秋彦之氏 中津森出身 (71歳)

市民がやりたいと思っ
て、参加したくなつてしま
うようなことをする。今はそ
ういうことが出来る時代にな
つて来たんじゃないかと思ひ
ます。また、次の世代に何か
を残してやりたい、ようやく
そういうことを模索しはじめ
た時代になったと思ひます。

大分県の平松知事が一村一
品運動と言つて、東京に来る
と焼酎を持って歩く。そうい
うことをやりながら東京へ来
る人は非常に多い。それは、
そこで情報を得て、刺激を求
めて、その刺激を元に戻して
国でその刺激をもう一度やっ
てみる。そこで何かできそう
だという目途をつけて、また
飛び出す。このサイクルをう
まく回しているのが、今の行
政でもあり、会社でもある。

もののが全然変わつ
て来ている今、その変わり目
に何をしようか、そこで新し
い情報を求めて、刺激を得て
それによつて自分の目をつく
つて行く、このことが今大事
ではないでしょうか。

市民の安らぎの場が 欲しい

国井氏

市がひとつの施策を行う時、

民間活用というのは、むし
ろ行政が皆に訴え掛けて、主
導権を持つてやつて行くこと
であつて、都留はそれにちよ
うどいい規模の自治体じやな
いかと思ひます。

PRが大切

奥秋氏

この間、鹿留の上流に行き
ました。都会から釣り人がよ
く来ていますね。あそこは、
私が一番大切にして欲しかつ
た部分だったんです。行つた
ら、河原という河原に全部キ
ャンプを張つていられるん
です。もう立ち入るすきがない
んです。これは素晴らしいとい
う。気持ちは一方に在るん
ですが、管理ということをし
てしまふ。

これは、民間ではなく、
出来れば市が率先してやつて
いただき、開発もして欲しい
。ために、経済合理性だけで
やつてしまふと、弊害だけ
が出て来ます。しかも、都留
市民が誇りとする安らぎの場
となるようにして欲しい。例
えば、夏休みが終わつたら、
子供達を集めて、遠足清掃大
会なんかをして、より身近な
ものとして行く。そうゆうこ
とが出来ると、来る時代にな
つたような気がします。



西室陽一氏 上谷一丁目出身 (59歳)

私達の小さい時から、富士
吉田は、富士五湖がある、富
士山がある。大月は鉄道の分
岐点としての位置にある。谷
村だけは何にもない。私は、
横浜に住んでいいます。奥秋
さんはどこの出身、谷村です。
都留市ですと言つて、知らな
いんです。なんだか昔から
ひなびた町のような気がな
つてしまふ。

今思うのに、都留文科大
学をつくつたことは、その当
時の人が非常に先見の目があ
つたのだと思ひます。私の若
い頃は、教育は国中というこ
とが言われていました。この
大学を宣伝することが、結局
は都留市の宣伝になるように
思ひます。

若い街に

峰岸氏

大学の通りと、この街の通
りとは、ちよつとムードが
違いますね。大学の方がナウ
イ店が多いですね。全部をナ
ウイ街には出来ませんが、六
本木・青山は別にあるんだ、
新宿は新宿であるんだ。そう
いう街づくりをすることがい
いような気がする。

思想を持った街づくり

国井氏

私は、月に一度渋谷に行く
のです。若者の街渋谷に、色
々なものを含めて街の活気が
違ひます。年を取つたら渋谷
に行けない、年を取つても
渋谷に行つて若者の趣味を吸
取して来る、このくらいの気
持が必要じゃないかと思ひま
す。ひとつその辺を研究した
らと思ひます。

若者の話ですけど、原
宿・六本木へ行ったがる状況
があつて、一方で、浅草の
近くの根津という、本当に昔
風のちよつとした細工物を作
つている人達しか住んでいな
いようなところに若者が行く
傾向がある。原宿・六本木に
は、外国に負けないほどのフ
ァッションの世界があるとす
れば、片方には、昔の古いかん
ざしみたいな物を売っている
所がある。そこには生活感
がある。若者とは全然あわ
ない人達だけれど、違つた物
を持つていて、そこにコミュニ
ケーションを求めている。そ
ういう若者意識も一方にはあ
る。この間、川越という古い
宿場町へ行つたんです。そこ
にも若い人達が沢山いるん
です。そこには、僅かですが
昔の白